

## **2 ; 墓地埋葬等に関する住民の意識調査**

本研究では、墓地埋葬や散骨等の住民の意識を把握するために、都市圏に居住する 40 歳以上の男女を対象に意識調査を行った。

具体的には、1. 墓地所有及び墓参状況、2. 希望する墓地形態、3. 居住地周辺における墓地整備に関する意識、4. 散骨に関する意識について、さいたま市、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市に居住する 40 歳以上の男女に対して web アンケート調査を行った。<sup>1</sup> 以下はその結果の概要である。全般的に調査対象地域による回答には大きな違いは見られなかった。

## **墓地所有及び墓参状況（詳細：「調査概要（6）（7）」「調査結果 2」等に拠る）**

まず、墓地所有については、世帯で墓地を所有しているとの回答は約半数であり、そのうちの約半分は市内に所有している。

墓地の種類は、境内墓地（寺、教会等敷地や境内にある墓地）が 33.1%と最も多く、霊園墓地（公営以外の公園形式の墓地）が 24.9%、公営墓地（市町村が設置した墓地）が 18.8%、共同墓地や個人墓地が 16.1%となっている。

墓の形状は伝統的な和型が 8割(81.3%)と大半を占める。その次には納骨壇型 (6.5%)、芝生・洋型 (4.9%)、洋型 (4.3%) が続いている。なお、調査対象地域のどの地域でも和型が最も多いものの、福岡市は「納骨壇型」(28.4%) が他の地域よりも多いといった特徴が見られた。

墓参りは 1年に1回というのが最も多い (35.8%) が、3回以上も少なくない (28.5%)。市外に墓地を所有している場合には3回以上との回答が 30.0%であるのに対して、市内に所有している場合には3回以上との回答が 54.2%と最も多くなっており、墓地への距離が墓参りの頻度に影響していることが推察される。

墓地の承継者の有無の割合では、「承継者がいない」との回答が 4割を超えている。また、「承継者はいるが、負担はかけたくない」との回答が 23.5%となっている。

世帯で墓を必要としていないとの回答が半数以上(53.5%)あった。うち、約半分は墓を既に所有している。一方、墓地を所有していない人の半数以上(53.7%)が墓を必要としていないと回答している。

## **希望する墓地形態（詳細：「調査結果 6, 10, 11, 12, 13, 14」等に拠る）**

希望するお墓の形式として1位は、伝統的な和型が6割以上と最も多く、納骨壇型 (10.1%)、芝生・洋型 (7.9%) が続いている (表1)。

---

<sup>1</sup> 株式会社ネオマーケティングが、自身の運営するアンケート専門サイト「アイリサーチ」を用いて web アンケートを実施。調査期間は、2013年11月15日(金)～11月20日(水)。有効回答数 1,115。

表1 希望するお墓の形態

	第1位		第2位		第3位	
1	和型	65.1%	洋型	27.5%	芝生・洋型	21.7%
2	納骨壇型	10.1%	芝生・洋型	2.0%	洋型	20.6%
3	芝生・洋型	7.9%	和型	9.0%	納骨壇型	14.8%

1位から3位の合計の割合で見ると、最も多いのは「和型」(81.0%)で、次いで、「芝生・洋型」(56.1%)、「洋型」(52.9%)となっている。

お墓を必要としている人の理由としては、「遺骨はないが将来のために用意したい」との回答が7割(70.9%)と大半を占めた。お墓を必要とする時期については、決めていないとの回答が8割近く(77.8%)と最も多い。

お墓と一緒に入る人については、「配偶者」(53.5%)が最も多く、「身近な家族」(28.8%)がそれに続いている。その次は、「こだわらない」(25.6%)との回答であり、「先祖」(19.3%)よりも多くなっている。なお、調査対象地域のどの地域でもこの順位は同じであったが、大阪市では、他地域に比べて、「個人(自分だけ)」(8.1%)・「こだわらない」(34.2%)の割合が多かった。

お墓を選ぶ基準として1位は、価格(31.7%)、自宅からの距離(25.0%)、交通の便(20.4%)となっている(表2)。

表2 お墓を選ぶ時に考慮・基準にする点

	第1位		第2位		第3位	
1	価格	31.7%	自宅からの距離	26.0%	管理状況	21.2%
2	自宅からの距離	25.6%	価格	19.5%	価格	18.3%
3	交通の便	20.4%	交通の便	17.2%	交通の便	16.3%
			管理状況	17.2%		

1位から3位の合計の割合で見ると、最も多いのは「価格」(69.5%)で、次いで、「自宅からの距離」(64.7%)、「交通の便」(54.0%)となっている。

お墓の広さについては、1位の回答では、お骨がおさまればよいとの回答が約7割(65.8%)を占めている。1位から3位の合計の割合で見ると、最も多いのは「3㎡(約2畳)」(96.1%)で、次いで、「1.5㎡(約1畳)」(94.9%)、「お骨が納まればよい」(83.8%)となっており、広さを求めていることがわかる。

お墓の承継者がいないと仮定した場合の希望するお墓の形態については、1位では和型(39.8%)が最も多くなっている(表3)。1位から3位の合計の割合で見ると、最も多いのは「和型」(51.3%)で、次いで、「納骨壇型」(46.3%)、「合葬型」(44.7%)となっている。表1と比較すると、承継者がいないと仮定される場合には合葬型や納骨壇型の希望が多くなっている。

表3 承継者がいない等の場合の希望するお墓の形態

	第1位		第2位		第3位	
1	和型	39.8%	芝生・洋型	20.1%	納骨壇型	16.0%
2	合葬型	18.0%	合葬型	17.0%	芝生・洋型	15.8%
3	納骨壇型	17.2%	樹木葬型	13.1%	芝生・プレート型	14.8%
			納骨壇型	13.1%		

今後、市（地方公共団体）が整備すべきお墓については、1位では和型（34.2%）が最も多く、次いで、合葬型（26.4%）、納骨壇型（14.0%）となっている（表4）。

表4 居住している市（地方公共団体）が整備すべきと思うお墓の形態

	第1位		第2位		第3位	
1	和型	34.2%	芝生・洋型	17.8%	壁型	18.2%
2	合葬型	26.4%	合葬型	17.3%	納骨壇型	17.8%
3	納骨壇型	14.0%	樹木葬型	15.9%	芝生・プレート型	16.1%

1位から3位の合計の割合で見ると、最も多いのは「合葬型」（51.3%）で、次いで、「納骨壇型」（47.4%）、「和型」（42.7%）となっている。

今後、市（地方公共団体）以外の民間（寺院等）が整備すべきと思うお墓については、1位では和型（36.4%）が最も多く、次いで、合葬型（26.7%）、納骨壇型（13.9%）となっている（表5）。

表5 居住している市（地方公共団体）以外の民間（寺院等）が整備すべきと思うお墓の形態

	第1位		第2位		第3位	
1	和型	36.4%	芝生・洋型	19.5%	納骨壇型	19.1%
2	合葬型	26.7%	合葬型	18.4%	壁型	17.4%
3	納骨壇型	13.9%	樹木葬型	16.2%	芝生・プレート型	15.9%

1位から3位の合計の割合で見ると、最も多いのは「合葬型」（51.5%）で、次いで、「納骨壇型」（48.1%）、「和型」（44.1%）となっている。このように、地方公共団体と民間の間で整備すべきとされる墓について大きな違いはない。

## 居住地周辺における墓地整備に関する意識（詳細：「調査結果 15, 16, 17」等に拠る）

墓地の新設にあたっては、「居住地の隣接地でも構わない」（51.1%）が最も多く過半数を占める。一方で、「そもそも、つくられること自体、認め難い」との回答がそれに続く（35.6%）。

設置主体別にみると、公営墓地の場合は、それ以外の場合に比べて隣接地でも構わないとの回答が多い(36.9%) (表6)。霊園墓地(公営以外)の場合には、つくられること自体認めがたいとの回答が最も多い(29.2%)。

表6 新たに新設される墓地ごとの居住地から受け入れられる範囲

	居住地の隣接地でも構わない	居住地から数mまたは数十m以上離れたところであれば構わない	そもそも、つくられること自体、認め難い	その他	わからない	<構わない>計
【公営墓地】 (市町村等が設置した墓地)	36.9% (411人)	18.3% (204人)	24.2% (270人)	1.3% (14人)	19.4% (216人)	55.2%
【境内墓地】 (寺、教会等敷地や境内にある墓地)	29.1% (324人)	28.1% (313人)	22.0% (245人)	0.8% (9人)	20.1% (224人)	57.1%
【霊園墓地】 (公営以外の公園形式の墓地)	24.8% (277人)	19.5% (217人)	29.2% (326人)	1.1% (12人)	25.4% (283人)	44.3%

n=1,115人

距離については、設置主体に共通して、中央値はほぼ100メートルとなっている。

新設墓地に求められる対策で1位として最も多いのは「霊園周辺を緑地帯で囲みお墓が見えない様にしてほしい」(44.6%)となっている。次いで、「墓地内に緑地を十分に確保し墓地使用者以外の地元の者にもオープンスペースとして開放してほしい」(20.9%)や「お彼岸など、お墓参りのシーズン時の交通渋滞の対策を行なってほしい」(18.7%)となっている(表7)。

表7 受け入れられる範囲に新設される墓地の希望内容

	第1位		第2位		第3位	
1	見えない様にする	44.6%	オープンスペースとしての開放	35.0%	交通渋滞対策	34.5%
2	オープンスペースとしての開放	20.9%	交通渋滞対策	29.9%	防犯	20.3%
3	交通渋滞対策	18.7%	防犯	14.6%	見えない様にする	14.5%

1位から3位の合計の割合で見ると、最も多いのは交通渋滞対策(83.1%)で、次いで、オープンスペースとしての開放(72.4%)、見えない様にする(71.6%)となっている。

## 散骨に関する意識(詳細:「調査結果 18~23」等に拠る)

散骨については、「名前も方法も、両方知っている」との回答が約半数(47.4%)となっており、「名前のみ知っている」との回答も含めると、約9割(88.4%)が知っていると回答している。一方、身近な人の散骨を実際に行ったことがあるとの回答は2.2%にすぎず、実際に経験した人はほとんどいない。

身近な人から散骨の希望があった場合は、頼まれれば行うとの回答が約7割(71.9%)と最も多くなっている。自分の遺骨の散骨については、「遺族の判断に委ねる」との回答が約4割(42.4%)と最も多い。「すべての焼骨を散骨してしましてほしい」と「一部の焼骨だけを散骨してほしい」を合わせた散骨希望計は34.5%となっている。一方、「散骨はしてほしくない」との回答も約2割(22.2%)を占めた。

居住地の散骨場の計画について、「そもそも、つくられること自体、認め難い」が約半数(48.9%)と最も多い。一方、「居住地の隣接地でも構わない」との回答も約4割(38.0%)となっている。

## まとめ

以上まとめると、所有する墓や希望する墓の形状については、伝統的な和型が最も多くなっている。ただし、承継者がいない場合や地方公共団体が今後整備すべきお墓については、和型よりは少ないものの、相対的に合葬型や納骨壇型の割合が高くなっている。また、墓の承継者がいなかったり、いても負担をかけたくないとの回答が6割を超えていることから、墓地の承継問題が将来的な課題となる可能性がある。

墓地に対しては広さはあまり求めておらず、価格、自宅からの距離、交通の便が選択基準となっている。

墓地の新設にあたっては、居住地の隣接地でも構わないという回答が過半数であるものの、設置を認め難いとの回答も4割弱ある。墓地の新設にあたって求められる対策としては、緑地などで囲って「見えないようにすること」が最も多く、その他、オープンスペースとしての開放や交通渋滞対策なども求められている。

散骨に関しては、認知度はかなり高くなっているものの、実際の経験者はごくわずかである。身近な人から頼まれれば行う、また自分の散骨については遺族の判断に任せるなど、自ら積極的ではないものの、状況によってはありえるとの考えが示されている。居住地での散骨場の建設については、墓地の場合と比較して、認め難いとの回答が高いものの、隣接地でも構わないとの回答も約4割となるなど、理解を示す回答も見られた。